

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174500973		
法人名	医療法人社団		
事業所名	おぶすまの里		
所在地	〒369-1215 埼玉県大里郡寄居町牟礼1510		
自己評価作成日	平成23年12月7日	評価結果市町村受理日	平成24年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1174500973&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成24年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然に囲まれ、秩父連山の霊峰を望む環境のもとで、ゆっくりと流れる時間をのんびりと気軽に過ごしていただいている。 グループホームに入所されている利用者様には地元出身者が多く、併設するデイサービスの方達との交流も楽しんでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、のどかな田園地帯にあり、平屋建ての木材を基調とした落ち着いた建物の2ユニット、定員18名のグループホームである。運営主体が医療法人であり、医療との連携もよく、安心して生活出来る体制が整っている。通所介護の利用者には地域の方が多く、顔見知りの方との交流もある。合同のレクリエーションも行い、相互のつながりや刺激に役立っている。介護計画も定期的に丁寧に見直され、家庭的な支援がなされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの個性を尊重する事業所の理念に基づいて、職員全員で確認し、利用者のニーズに取り組んでいる。入職時理念、心得を施設長より研修を実施している。	平成16年の開設当初の理事長が考案した理念を目につく箇所に掲示し、職員は毎朝礼時に復唱している。入居者個々を尊重し、安心安定した生活の提供を目指している。	職員で具体的な場面やケアに当てはめて検討したり、地域密着型サービスの視点も加える等、より深みのある理念として共有実践する事が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例となったふれあい祭りへの参加に加え、今年はコミュニティセンターでの文化祭に参加させていただいたほか、防災訓練への参加の呼びかけなど、かかわりの機会を増やしている。	自治会に加入し、町・地域の行事に参加、見学している。又、近隣の方々と散歩時等に挨拶や言葉を交し、野菜の差入れを頂く等の交流がある。併設の通所介護事業所と合同の新年会には、家族の参加も多くある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを数ヶ所の分野より実施している。 利用者の家族等に来園時の時間の中で相談を受ける事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第三者評価の結果の報告をふまえての話し合いの実施を行っている。毎月状況報告、委員よりの意見助言を会議時実施している。今年は震災があったこともあり、防災についてや、有事の時の連絡体制についても、話し合いを行った。	年6回、隔月開催している。地域包括支援センター職員、ボランティア、公民館館長、入居者・家族の代表、職員を構成メンバーとしている。議題は活動内容、その他あまり変化なく開かれている。	年6回開催は評価出来る。今後も地域住民等、関わりのある多分野の方々や多くの家族の出席が得られるよう工夫し、ホームに対する理解とサービス向上に役立つ意見、助言等が得られ、より充実した運営推進会議となる事が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での、包括支援センター職員の出席を基に助言を頂いている。 歳末助け合い募金の協力、民生委員、児童委員の施設訪問、防災関連の相談、連絡、連携に努めている。	必要に応じて報告、相談等連絡を取り合っている。又、運営推進会議時に、地域包括支援センター職員より情報を得たり、ホームの実情を理解してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は基本は施錠せず、声掛けや一緒についていくように対応している。 身体拘束についての研修を実施し理解を図っている。	マニュアルに基づいて研修し、ケースを捉えてその都度理解を深め、再確認し、しないケアを実践している。玄関の施錠は基本的にしていないが、入居者の状態に応じ、止む得ず家族の了解を得て、施錠する事もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング、施設内研修等を実施し、理解や取り組みを図っており、不適切なケアについての話し合いが実施されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を通し、職員へ説明する機会を持ち、誰でも閲覧できるところに資料を置き、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに関する考え方や、取り組みについて、利用者や家族等が、理解、納得できるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を出しやすいように面会来訪時などを通して信頼関係を作り、サービスの質の確保、向上に繋げている。	玄関に意見箱を設置している。新年会時に談笑しながら、又、面会や来訪時等に生活の様子を伝える中で、要望や意見を聴取するようにしている。実践出来るものは即取入れ、内容により職員間で話し合い、応答し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者が現場で共に仕事をする為、意見や情報を随時取り入れ、運営に活かしている。	月1回定期の職員会議をユニット毎に実施し、研修や個々の提案、意見の検討の場に行っている。欠席の職員には議事録にて周知を図っている。提案や気づきはなるべく早期に検討し、改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意向を取り入れ、また、各自の能力に合わせた労働条件を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修の機会を積極的に取り入れ、それを元に施設内研修を行い、職員が共に学べる機会を作っている。施設内研修では、職員がテーマに沿って責任を持って資料を作り、全職員を対象に簡単な講義を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などでの、同業者との交流はあるが、事業者同士での協働となる取り組みは不足している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握し、本人の思いや不安を聞き入れ、疑問、要望がある時は、できる限り応えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めているものや、今までの本人のサービス利用状況を理解し、それをもとにこれからのサービス提供をどうしていくべきか話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等の要望・状況を把握し、改善に向けてどういった支援をすれば良いか、パターンを考えて必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の趣味・嗜好、得意なことを、日々の関わりの中で見つけ出し、共に平穏安心な生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を必要に応じ、その都度経過連絡をして情報の共有に努め、今後のサービス提供の方向性も家族と相談のうえ決めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や、整骨院の受診、本人の故郷周辺へのドライブや商店に買物に出たりするよう支援している。併設のデイサービス利用者の友人と継続的な交流をしている。	馴染みの美容院に家族と出掛けたり、訪問理美容師や整骨医、ボランティア等との馴染みの関係の継続や、友人、知人の訪問、一時帰宅や家族との外出等、慣れ親しんだ関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握できるように、普段の生活状況を注意深く見守り、共に助け合い支え合えるホールでの席を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合も、共に情報交換を行い連携し、職員が訪問や見舞いに行くなど関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって最良の暮らし方を、本人の意向をできる限り把握し、家族と関係者からも情報を得て検討している。	本人との話や様子から、又、家族、親戚、友人、知人等から聴取した情報を把握し、出来るだけ思いや意向に沿う生活の提供に努めている。難聴の方には耳の近くで大きな声で話す等、本人本位の対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーの配慮を忘れず、本人の生活歴を知り理解につなげ、本人や家族、地域の人の力を借りながら、継続的に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の記録や話し合いから、健康面や精神面の変化に対応できるよう本人の状態を職員全員で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でカンファレンス・モニタリングを行い、情報交換、共有、意見やアイデアを出している。	毎月全入居者のカンファレンス、モニタリングを担当者中心に実施し、計画作成者は要変更時は新たに、状態安定時は6ヶ月毎に介護計画を作成し、家族に説明し、要望や意見を聞き、同意を得て完成させている。状態急変時は、その都度現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルや、食事、バイタル、排泄などの表を用意し記録している。ケア記録は日中と夜間、医療・回診で色を区別し見やすくしている。月末には評価を記入し実践や介護記録に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況や要望に応じて、必要な支援は可能な限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容や地域ボランティアとの協働、小学校の子どもたちにより栽培された野菜を届けて下さるなど、地域の力を借りた取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人や家族の希望に応じ対応し、安心感を図るよう心がけている。診療所併設のため、医師が足を運び、利用者は安心されている。	かかりつけ医は本人、家族の希望で決めてもらっている。協力医は月1回全入居者を訪問診療している。歯科は依頼すれば訪問診療可能である。その他は家族同行の受診とし、依頼があればホームでも対応している。受診結果は連絡し合い、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療法人の施設のため、利用者の日々の変化は施設内の看護師に伝え、迅速な対応や連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、病院と情報共有を図り、定期的に見舞うようにしている。家族とも情報を交換しながら、退院に向けて支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、本人・家族の意向を踏まえ、サービスの方向性を確認し、医師、家族、職員で方針を決定している。	必要な時期に本人、家族の意向により、その都度医師、家族、ホーム側で方針を話し合い、可能な限りの受入れをしている。今まで数人の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED及び心肺蘇生法の施設内研修を年1回、その他の研修なども行い、緊急時対応のマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	必要に応じ消防職員に立ち会って頂き、職員、利用者の全員参加で実施している。最近では、利用者家族や、周辺住民の方への呼びかけにより、参加人数も少しずつ増え、近隣との協力体制が構築されつつある。より充実が必要。	消防署立会いの訓練を含め、入居者参加で年2回、火災、地震、夜間、出火場所等、様々な想定で訓練を実施している。周辺住民の参加も徐々に増え、今後も協力体制整備の強化を予定している。水、食料品等、生活用品の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への対応が不適切な場合は、随時注意や個人面談を行い、一人ひとりの尊厳の配慮に努めている。	職員の言葉遣いや行動が気になる時は、管理者がその都度個々に注意し、申し送り簿に記載して周知している。排泄や着替え等はさりげなく声かけし、支援している。居室のドアは殆どの入居者が開放している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活やレクリエーションでは、本人が決める場面を作り、合同で行う場合は本人が納得した上で実行するよう努めているが、症状の重度化などにより、意思把握が困難な状況があり、ニーズの見極めがより必要な状況にある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	デイサービスとの兼ね合いもあり、レクや入浴などの基本的な流れはあるが、できる限り一人ひとりが自然な生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向のもとで整容を整え、特に意思表示が困難な方でも注意深く観察し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族が栽培された野菜の使用、施設で栽培された野菜を利用者と一緒に収穫して食事を楽しんだり、できる範囲での食事の準備を利用者と共に行っている。毎週土曜日の昼食では、利用者からのリクエストメニューを提供している。	朝、夕はユニットで調理した食事、昼は三品の中から選べる外注食を提供している。夕食は栄養計算された食材を購入している。土曜日の昼食は、入居者の嗜好や希望に合わせて献立を決めている。昼食は職員も一緒にとり、見守りながら食べやすいように刻んだり、介助したりしている。	通所介護事業所の利用者との時間帯のずれがある中、食事を楽しむ支援に向け、一日の流れや環境等の工夫が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調に合わせて量を調節したり、誤嚥防止や食べやすいように具を刻むなどして工夫している。水分や食事の摂取量も記録し、バランスの良い食生活ができるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声をかけ、できない方には口腔内の清潔が保てるよう、介助や見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせ、トイレ誘導、ポータブルトイレの使用、時間帯や状況によりオムツやパットを使用して排泄の失敗を減らすよう努めている。	半数の入居者は布パンツ着用で自立している。居室に排泄表を貼り、回数等は確認出来ている。回数や失敗が多い時、本人、家族の了解を得て、トイレに近い居室に変更したケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて、おやつや食事は野菜を中心にし、十分な水分補給を心がけている。便秘になりやすい方は必要に応じ服薬、浣腸で排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	服を脱ぐことを嫌がったり、入浴を拒む利用者には、チームプレイによって、言葉がけや対応に工夫をしている。	毎日平均3～4人ずつ、一人平均週3回の入浴を支援している。個浴を原則とし、希望があれば気の合った人同士で楽しんでもらっている。体調や気分での中止、辞退、拒否時は、時間や日を変えて対応している。菖蒲湯や柚子湯等、季節の変わり湯も取入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが崩れないように、日中はなるべく活動を促し、状態により昼寝の時間を作り、昼夜逆転などの防止の予防をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬関連の書類を閲覧できるようにし、服薬状況や処方薬の変更などを確認できるようにしている。また、施設内研修により、誤薬事故の防止を周知徹底させている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみごとを見出し、できることをしていただき、感謝の言葉を伝え、活力を引き出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な場合でも車いす等を使用し、散歩や外気浴、ドライブやイベントに行くなどを計画して気分転換を積極的に取り入れている。天気の良い日は努めて外気浴、散歩を実施している。家族との外食、外出もすすめている。	晴れた日、気候のよい時季は、日光浴や近辺への散歩をしている。町や地域のイベントに出掛け、会場で軽食を楽しんだり、家族と出掛けて外食をしている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は、家族と本人の意向を踏まえ、施設側で管理したり、安心できるよう小額の所持金を持っていただけるようにするなど、状態に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしてもよい時間帯や場面などをあらかじめ確認しておき、本人の希望で自らができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に制作した作品や書道などを掲示して、居心地よく過ごせるよう共用の空間づくりをしている。	ユニット毎に多少条件は違っているが、材質が木材で、ぬくもりと落ち着いた雰囲気がある。入居者と職員と一緒に作った作品を掲示している。所々に天窗があり、自然光が入り、採光に工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係等に合わせたテーブルの席や、居場所づくりに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安らぎを得るよう馴染みのものや昔からのものを使用し、家族の方にも理解・協力していただいている。	入口に入居者の名前が書かれた表札を掲示している。好みの椅子、タンス、テレビ、衣装ケース等々を持ち込み、使いやすい居室作りをしている。自分の作品や観葉植物を置き、その方らしくまとめている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止、防災、運動のためにも、施設内の環境整備に努め、一人ひとりが自立した安全な生活が送れるように工夫している。		